

平成18年度科学研究費補助金交付申請書

平成 18 年 5 月 2 日

独立行政法人
日本学術振興会理事長 殿

所属研究機関の本部の所在地及び名称	〒 657-0051 神戸市灘区篠原伯母野山町 1-2-1		
	名称	神戸松蔭女子学院大学	
所属研究機関の長の職名・氏名	職名 学長	氏名 後藤 博一	職印
研究代表者の部局・職	部局 文学部	職 教授	
フリガナ	グンジ タカオ		
研究代表者の氏名	郡司 隆男		印

次のとおり研究を実施したいので、科学研究費補助金（基盤研究(A)）の交付を申請します。

研究課題名	日常的推論の論理と言語形式: 量化表現、条件文、モーダル表現を中心として
-------	--------------------------------------

補助金額 (交付予定額)	直接経費	間接経費	直接経費と間接経費の合計(+)	分担金の有無
	10,100,000 円	3,030,000 円	13,130,000 円	有
	直接経費の 費目別内訳	物品費 4,300,000 円	旅費 4,200,000 円	謝金等 1,000,000 円

研究組織	研究者番号	機関番号	所属番号	職番号	役割分担等 <small>(本年度の研究実施計画に対する分 担事項等を具体的に記入すること。)</small>	エフオ ート (%)	直接経費(分 担金の研究者 別内訳)(円)
	氏名	所属研究機関・部局・職					
研究代表者	10158892	3451320120			量化表現の統語論・意味論的考察	25	3,400,000
研究 分 担 者	70263994	3440900420			条件文の統語論・意味論的考察	20	500,000
	有田 節子	大阪樟蔭女子大学・学芸学部・教授					
	20213233	3391220620			量化表現の意味論的考察	20	1,200,000
	今仁 生美	名古屋学院大学・外国語学部・教授					
	60374097	2010390320			文脈表現の性質の論理的考察	15	1,350,000
	片桐 恭弘	公立ほこだて未来大学・システム情報科学部・教授					
	40153902	1260192520			日常的推論の表現の論理的考察	20	1,000,000
	坂原 茂	東京大学・大学院総合文化研究科・教授					
	10154957	1430192320			モーダル表現の統語論・意味論的考察	15	1,550,000
田窪 行則	京都大学・大学院文学研究科・教授						
60181939	1440188821			量化表現と条件文の意味論的考察	20	1,100,000	
三藤 博	大阪大学・大学院言語文化研究科・助教授						
00273714	3451320121			日常的推論の表現の統語論・意味論的考察	15		
松井 理直	神戸松蔭女子学院大学・文学部・助教授						
研究者合計(小計)	8 名				直接経費合計(小計)	10,100,000	
キーワード	言語学	推論	量化表現	条件文	モーダル表現		
機関番号	34513	研究種目	基盤研究(A)	課題番号	15202009		

研究の目的

本研究は、推論および推論に関わる言語形式の研究を通じて、日常言語における推論がどのような形でなされるのかを考察し、論理形式と日常言語との相関関係を探求することを目的とする。

推論の形式自体は原則として母語に依存しないが、言語によっては、推論の形式を言語形式で明示しない場合がある。また、ある種の推論形式が言語的に区別されない場合もある。例えば、英語は論理、推論に関わる表現形式は、比較的単純な体系のものしかもっていないのに対して、日本語では論理・推論に関わる表現形式は非常に複雑で精緻な区別をもつ。本研究では、日本語と、英語などの西欧語、および類型論的に日本語に近い韓国語を対象として、推論の表現形式におけるこれらの言語間の差異と類似性を網羅的に調べ、言語の普遍性と個別性の問題に新たな観点から焦点をあてることを目標とする。

本研究は、日本語の形式意味論的な側面とともに、西欧語の非形式的側面を明らかにし、それぞれの言語において従来手つかずである研究の側面を補完するものである。

本年度（～平成19年3月31日）の研究実施計画

本年度は、前年度までの研究成果を踏まえ、引き続き、日本語、英語・ドイツ語などの西欧語、および、韓国語について、前年度までの研究により収集され分類された、日常的推論、量化表現、条件文、モーダル表現に関わる言語現象を統一的に考察していく。

さらに海外共同研究者との討議の場として、以下を計画する。

1. 9月に、海外共同研究者 Riemsdijk（後記参照）および日本側分担者の一部で、京都大学において、1週間程度集中討議をする場を設ける。
2. 11月に、海外共同研究者 Dancygier（後記参照）および日本側分担者の一部で、東京大学において、1週間程度集中討議をする場を設ける。
3. 2月下旬に、アメリカおよび韓国側の参加者を中心として、最終年度のまとめとして、これまでにわかったことを総括するワークショップを開催する。

本年度は最終年度にあたるので、総括に加えて、今後の研究の展開についても話し合い、新たなプロジェクトへ向けての活動を開始する。

[研究協力者]

Stefan Kaufmann	Northwestern University	海外共同研究者間のとりまとめ、英独語の条件文の意味論的考察
Peter Sells	Stanford University	条件文の比較統語論的考察
Henk van Riemsdijk	Tilburg University	ゲルマン諸語の量化表現の考察
Barbara Dancygier	University of British Columbia	条件文の談話的認知的側面の研究

主要な設備備品の内訳（1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの）

品名	仕様 (製造会社名・型)	数量	単価 (円)	金額 (円)	納入予定時期
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月
					平成 年 月